

Ⅵ 年間指導計画の作成

各学年の年間指導計画を作成し、キャリア教育を教育課程に位置付けることで、生徒の発達の段階に応じた教育活動の展開が可能になります。

(1) 年間指導計画作成の手順

① 各校の生徒の学年等に応じた能力・態度の目標を決定します。

② 全体計画で設定した各能力・態度の目標に基づき、各校の年間行事予定、学年別の年間指導計画に記載する内容を検討します。

③ 各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動及び学級の実践等を相互に関連付けた指導計画を作成します。

④ 各能力・態度の到達目標に応じた評価の視点を設定し、明確化します。

- 年間指導計画には、学年・実施時期・予定時間・単元名・各単元における主な学習活動・評価を盛り込むことが考えられます。
- 生徒の学習経験や発達の段階を考慮し、季節や学校行事などの活動時期を生かします。
- 各教科等との関連を見通し計画します。

(2) 年間指導計画作成の留意点

生徒の実態や発達の段階に応じた目標や内容ですか。

生徒のキャリア発達を支援できるように、具体的で体系的なものはありますか。

各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の中学校学習指導要領との関連が図られていますか。

各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動及び学級の実践等、それぞれのねらいや内容を踏まえて関連付けていますか。



評価の視点等を考慮し、評価方法を検討しましたか。

家庭や地域、学校間の連携を考慮していますか。

(3) 年間指導計画作成の効果

- 発達の段階に応じて学年を通したキャリア発達を支援できます。
- 発達の段階や学年に応じた身に付けさせたい諸能力・態度の到達目標が明確になります。
- 年間の学年における活動がどのような能力・態度の育成を図ろうとするものか明確になります。
- 各教科等の取組がどのように位置付けられているか明確になります。

■ 各教科と年間指導計画 キャリア教育のねらいと関連する主な内容（活動例）

学習指導要領とキャリア教育との関連を明らかにすることで、系統的な指導ができます。

国語

適切に表現し正確に理解する能力、及び伝え合う能力の育成（活動例）

- 日常生活の中の話題について対話や討論をする。
- 社会生活に必要な手紙を書く。
- 時間や場の条件に合わせてのスピーチを行う。

社会

個人と社会とのかかわりの理解を深め、現代社会についての見方や考え方の基礎を形成（活動例）

- 現代社会のもつ特色や現代社会をとらえる見方や考え方の基礎を理解させる。

数学

数学のよさを実感し、活用して考えたり判断したりしようとする態度の育成（活動例）

- 数学を学習することの意義や、数学の必要性などを実感する機会を設定する。

理科

科学技術の発展と人間生活とのかかわり（活動例）

- 理科で学習することが様々な職業と関係していることにふれる。
- 科学技術が日常生活や社会との関連、安全性の向上に役立っていることにふれる。

音楽

音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度の育成（活動例）

- 音楽と生活や社会とのかかわりを実感できるような指導を工夫する。
- 音楽が人々の暮らしとともにはぐくまれてきた文化であることに気付かせる。

美術

生活を美しく豊かにする美術の働きについての理解（活動例）

- 美術館・博物館等の施設や文化財などを積極的に活用する。
- 使いやすい形、使う人の気持ちを大切にしたい色、優しさのデザインを考える。

保健体育

生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力の育成（保健分野）

公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画するなどの意欲の育成（体育分野）

- （活動例）
- 健康な生活と疾病の予防について理解を深める。（保健分野）
 - グループの意思決定に参画することに自主的に取り組む。（体育分野）

技術・家庭

技術と社会とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度の育成（技術分野）

これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度の育成（家庭分野）

- （活動例）
- 工夫・創造の喜びを体験する中で、勤労観や職業観、協調する態度を身に付ける。（技術分野）
 - 幼児と触れ合う活動などを通して、自分の成長を振り返り、自分と家族や家庭生活とのかかわりについて考える。（家庭分野）

外国語

積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成（活動例）

- 身近な言語の使用場面や言語の働きに配慮した言語活動を行う。

道徳

道徳教育の目標は…

学校の教育活動を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。

道徳の時間においては…

道徳的価値の自覚及び人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成するものとする。

総合的な学習の時間

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

特別活動

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

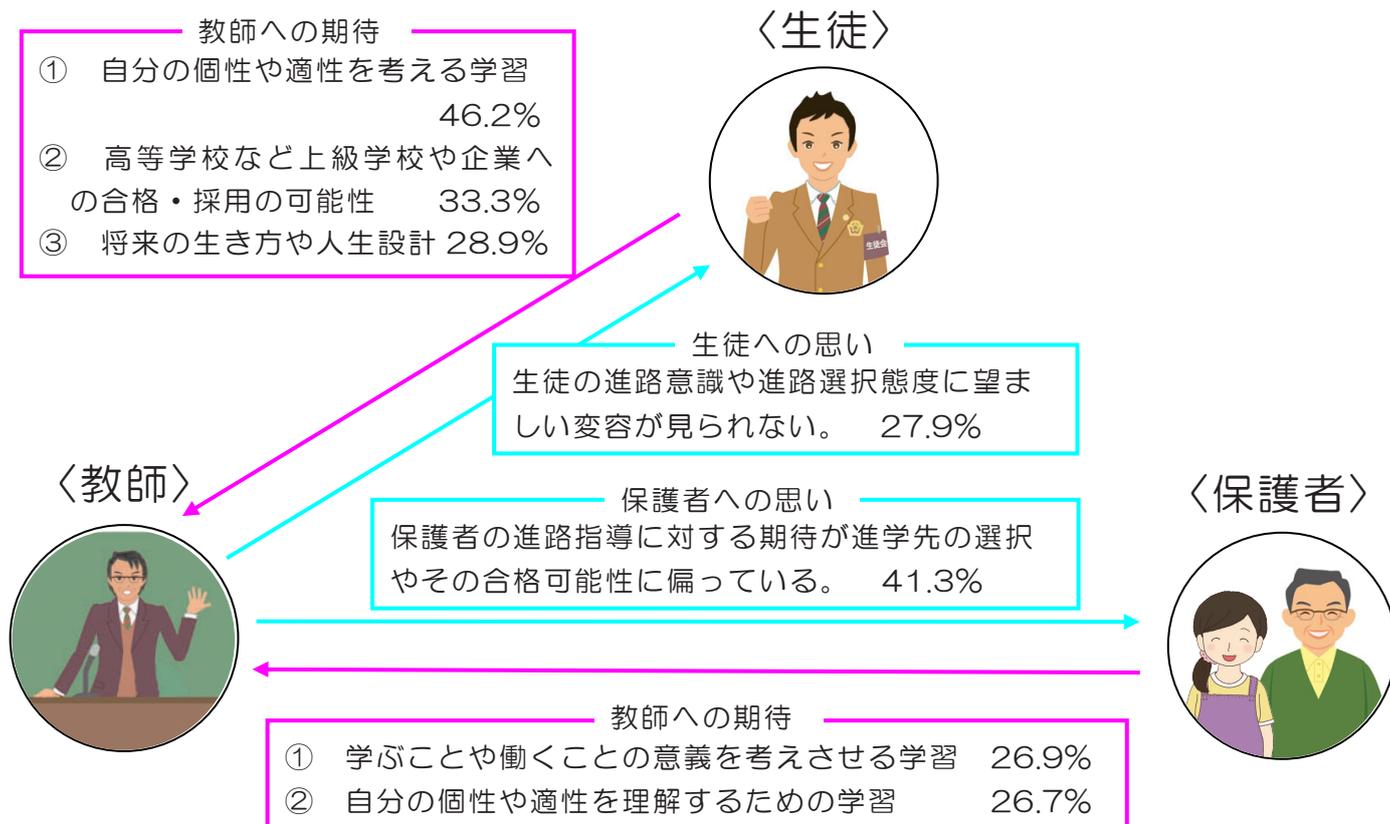
（国立教育政策研究所「キャリア教育って結局何なんだ？『自分と社会をつなぎ、未来を拓くキャリア教育』（平成21年11月））

各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動との関連については、小学校学習指導要領におけるキャリア教育に関する主な目標・内容等を踏まえる必要があります。国立教育政策研究所生徒指導研究センター『「キャリア教育」資料集』平成21年4月を参考として作成したものが、「小学校キャリア教育の手引き<改訂版>」49～58ページに掲載されています。

(4) 進路指導と年間指導計画

キャリア教育の視点から、規範意識やコミュニケーション能力の形成を支援することを重視した年間指導計画を作成し、実践することで、キャリア発達を促す指導と進路決定のための指導とが、系統的に展開され、時代の変化に力強くかつ柔軟に対応していくことができるようになります。

■ 生徒や保護者は、生き方や進路について考える学習にどのような期待をいただいているでしょうか。



日本進路指導協会「中学校・高等学校における進路指導に関する総合的実態調査」
(平成16・17年度文部科学省委託事業)

このことから、次のことがわかります。

- いわゆる出口指導だけを保護者が期待していると思っている教員が少なくありません。
- 生徒及び保護者は、出口指導ではない本来の進路指導である「生き方の指導」の充実を求めています。



教員は、進路指導の年間指導計画を、本来の進路指導である「生き方の指導」＝キャリア教育の視点から捉え直すことが大切です。